

- 問1 安価な外国産牛肉の輸入量が増加し、国際的な製品との競争が激しくなる中で、宮崎県の畜産農家が進めている取り組みとして適切な説明はどれですか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 大規模な機械化によって生産コストを輸入牛肉よりも低く抑え、価格の安さで勝負する。 | 2. 牛肉の生産を段階的に縮小し、すべての農地を輸入の影響を受けにくいサトウキビ栽培に転換する。 | 3. 「宮崎牛」などの名称でブランド化を推進し、品質の高さや安全性で輸入品との差別化を図る。 | 4. 海外の安い飼料を使わず、国内産の高級な牧草のみを使用することで、販売価格を輸入品の10倍以上に設定する。 |
|---|--|--|---|
- 問2 九州地方の5県（佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島）における2014年の耕地面積の統計によると、佐賀県や熊本県では田の面積が畑の面積を上回っていますが、鹿児島県では全耕地面積に占める畑地の割合が突出して高くなっています。鹿児島県においてこのように畑作が盛んである主な理由として、土地の性質について説明したものを選びなさい。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 有明海沿岸の干拓によって得られた土地が、塩分の影響で稲作よりも畑作に適していたため。 | 2. 筑紫平野のような平坦な低地が広がっており、排水作業を行って広大な畑地を確保しやすかったため。 | 3. 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。 | 4. 山間部を切り開いた棚田が多く作られたが、近年の機械化に伴いその多くが果樹園へと転換されたため。 |
|---|---|---|--|
- 問3 世界最大級のカルデラを持つ阿蘇山が位置する県について、統計資料において第1次産業の就業者割合が約10パーセントと比較的高く、人口密度が1平方キロメートルあたり約240人である場合、この県の名前として正しいものはどれですか。 (2019年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. 熊本県 | 2. 鹿児島県 | 3. 宮崎県 | 4. 長崎県 |
|--------|---------|--------|--------|
- 問4 日本列島周辺の海底地形のうち、九州地方の西側にある東シナ海の特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 大陸から続く水深200m程度までの平坦な海底が広がっており、好漁場となっている。 | 2. 海岸沿いに砂が堆積してできた砂州が発達し、巨大なラグーンを形成している。 | 3. 水深6000mを超える細長い溝状の地形が続き、プレートの沈み込み帯となっている。 | 4. 周囲を急峻な斜面に囲まれた、非常に深い盆地状の地形が中心となっている。 |
|---|---|---|--|
- 問5 日本国内のアメリカ軍専用施設面積の約70%が沖縄県に集中している現状に関連して、その背景や課題に関する記述として最も適切なものはどれですか。 (2023年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. サンフランシスコ平和条約の発効と同時にすべての基地が本土へ移転したため、現在は沖縄県の負担は解消されている。 | 2. 1972年の本土復帰後も多くの施設が維持され、騒音や事故、跡地利用の制約などが住民生活に影響を与えている。 | 3. 沖縄県の面積は日本全体の約10%を占めているため、面積比で見れば基地の割合は他県と同水準である。 | 4. アメリカ軍基地のほとんどは人が住んでいない離島に設置されているため、都市開発への影響は限定的である。 |
|---|--|---|---|
- 問6 九州地方南部に位置する鹿児島県の大隅半島などには、「シラス台地」と呼ばれる火山灰が厚く堆積した地形が広がっています。この地域で肉用牛や豚などの畜産業が盛んになった地理的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. シラス台地は標高が高く一年中冷涼な気候であるため、暑さに弱い肉用牛の飼育に適した環境であった。 | 2. 火山灰に含まれる特殊な鉱物資源が家畜の飼料として最適であり、周辺の県からも家畜が集まるようになった。 | 3. シラスは非常に水はけが良く、水田稲作に必要な水を保持しにくかったため、土地を広く活用できる畜産が発展した。 | 4. 広大な台地をすべて森林にする計画があったが、火山ガスの影響で樹木が育たず、やむを得ず畜産に転換した。 |
|--|---|--|---|
- 問7 九州地方南部に広がるシラス台地のような地形で、標高が高い平坦な面が主に「畑」として利用される理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 標高が高い場所は平地よりも日照時間が短く、水田よりも畑作の方が収穫が安定するから | 2. 標高が高い場所は気温が低く、稲の生育に適さないため、寒さに強い作物を育てる必要があるから。 | 3. 台地の上は地盤が非常に軟弱であり、水田を作ると地盤沈下を引き起こす恐れがあるから。 | 4. 火山灰が降り積もった地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難だから。 |
|---|--|--|--|
- 問8 鹿児島県の南方に位置し、人口約3万人のある島に関する統計資料において、「日本最大のロケット打ち上げ施設（宇宙センター）があり、宇宙開発関連の観光が行われている」「農業ではサトウキビの生産が盛んである」と説明されている島はどこですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 奄美大島 | 2. 種子島 | 3. 屋久島 | 4. 壱岐島 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問9 日本の諸都市の気象データにおいて、一月の平均気温が十度前後と高く、かつ七月の月降水量が三百五十ミリメートルを超える非常に多い降水量を示す都市として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 金沢市 | 2. 大阪市 | 3. 宮崎市 | 4. 札幌市 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問10 九州地方南部の鹿児島県から宮崎県にかけて広がる、過去の巨大な火山活動による噴出物が厚く積み重なって形成された広大な台地を何と呼びますか。 (2019年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 甲府盆地 | 2. 筑紫平野 | 3. シラス台地 | 4. カルデラ |
|---------|---------|----------|---------|
- 問11 九州南部の鹿児島県などに広がる火山灰層からなる台地において、古くから水田稲作があまり行われず、サツマイモや飼料用トウモロコシなどの畑作、および畜産業が発展した理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|---|--|
| 1. 火山灰に含まれる栄養分が多すぎるため、稲が成長しすぎて倒伏してしまうため。 | 2. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を妨げる性質を持っているため。 | 3. 土壌が非常に硬い岩盤状になっており、農作物の根が深く張ることができないため。 | 4. 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。 |
|--|---------------------------------------|---|--|
- 問12 九州地方の地理的環境とエネルギー産業について述べた次の文のうち、大分県の特徴について背景を含めて説明したものとして、正しいものはどれか。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 筑後川の下流域に広がる平野の地質を活かして、地熱発電よりも米の二毛作や麦の生産を優先して行っている。 | 2. 阿蘇山などの火山帯に近い地理的条件を背景に、地下の蒸気を利用した地熱発電が発達し、全国有数の発電量を誇っている。 | 3. リアス海岸が続く複雑な海岸線を活かして、大規模な風力発電所を建設し、製造品出荷額の大部分をエネルギー産業が占めている。 | 4. 南九州に位置する地理的条件から、地熱発電よりも日照時間の長さを活かした太陽光発電が産業の中心となっている。 |
|---|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 「宮崎牛」などの名称でブランド化を推進し、品質の高さや安全性で輸入品との差別化を図る。	貿易の自由化によって海外から安価な牛肉が大量に流入するようになり、国内の畜産業は厳しい競争にさらされています。宮崎県ではこれに対抗するため、厳しい品質基準を満たした牛肉に地域名を冠した「ブランド化」を行い、高級感や信頼性を高める戦略をとっています。このように、価格ではなく付加価値の高さで選ばれる仕組み作りが、日本の農業振興策として重要視されています。
問2	答え 3 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県から宮崎県にかけての九州南部には、過去の火山活動による噴出物が厚く堆積した「シラス台地」が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、古くから稲作ではなくサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した畜産が発展してきました。これに対し、佐賀県などの平野部では水田率が高い傾向にあります。
問3	答え 1 熊本県	阿蘇山は熊本県に位置しています。熊本県は豊かな湧水や阿蘇の広大な景観を活かした農業が盛んであり、第1次産業の就業者割合が全国平均よりも高い傾向にあります。鹿児島県にはシラス台地、長崎県にはリアス海岸といった特徴的な地形がありますが、阿蘇山のカルデラがあるのは熊本県です。
問4	答え 1 大陸から続く水深200m程度までの平坦な海底が広がっており、好漁場となっている。	九州西方の東シナ海は、大陸棚が広大に広がっていることが最大の特徴です。この地形は、かつての氷河期には陸地であった場所が、その後の海面上昇によって浅い海となったものです。プランクトンの増殖に適しており、古くから漁業が盛んな地域として知られています。海溝は太平洋側に多く見られる特徴です。
問5	答え 2 1972年の本土復帰後も多くの施設が維持され、騒音や事故、跡地利用の制約などが住民生活に影響を与えている。	沖縄県は第二次世界大戦後、1972年までアメリカの施政権下に置かれていました。本土復帰後も日米安全保障条約に基づき、広大な土地が米軍専用施設として残されました。特に人口密度の高い本島中部に基地が集中していることから、航空機の騒音や事故の危険性、さらには都市開発の妨げといった問題が長年続いています。
問6	答え 3 シラスは非常に水はけが良く、水田稲作に必要な水を保持しにくかったため、土地を広く活用できる畜産が発展した。	鹿児島県に広がるシラス台地は、過去の火山活動による火砕流堆積物が積み重なってできた地形です。この土壌は水分を地中に通しやすい（水はけが良い）という性質を持っているため、大量の水を蓄える必要がある水田稲作には不向きでした。その代わり、サツマイモなどの畑作や、広大な土地を有効活用できる肉用牛、豚、鶏などの畜産業が大きく発展し、現在では日本有数の畜産地帯となっています。
問7	答え 4 火山灰が降り積もった地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難だから。	シラス台地は火山噴出物が堆積してできた地形で、水が地下に浸透しやすい性質を持っています。台地の上（標高が高い部分）は川からの水も引きにくく、水持ちが悪いため、水田よりもサツマイモや茶などの畑作に利用されるのが一般的です。一方で、台地を削る川沿いの標高が低い場所では、わずかな水を利用して水田が作られることがあります。
問8	答え 2 種子島	鹿児島県の南方に位置する種子島は、島全域に平坦な丘陵が広がっているのが特徴です。この地形を活かして、日本最大のロケット打ち上げ施設である種子島宇宙センターが設置されており、宇宙開発は島の重要な観光資源にもなっています。また、温暖な気候を利用したサトウキビ栽培も島の主要な産業の一つです。
問9	答え 3 宮崎市	太平洋側に位置する宮崎市は、沖合を流れる暖流の黒潮（日本海流）の影響を受けるため、冬でも一月の平均気温が十度前後と温暖な気候になります。また、夏から秋にかけては、湿った南東の季節風や台風の影響を強く受けるため、七月の降水量が三百五十ミリメートルを超えるなど、全国的にも極めて降水量が多いのが特徴です。札幌市は一月の気温が氷点下となり、金沢市は冬の降水量が多く、大阪市は宮崎市ほどの降水量には達しません。
問10	答え 3 シラス台地	九州地方南部には、過去の火山活動に由来する火砕流堆積物が広範囲に分布しています。この白っぽい砂状の土壌からなる台地は、水はけが非常に良く水持ちが悪いため、かつては稲作に不向きな土地とされてきました。そのため、現在でもサツマイモや茶などの畑作、あるいは大規模な畜産が盛んな地域となっています。
問11	答え 4 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。	シラス台地を構成する火山灰や軽石の層は、隙間が多くて水を通しやすい（水はけが良い）という特徴があります。この性質は、常に水を張っておく必要がある水田（稲作）には不利に働きます。そのため、水分が少なくても育つ作物や、広大な土地を利用した畜産業がこの地域の主な産業となりました。近年では、灌漑施設の整備により、一部で野菜栽培なども行われています。
問12	答え 2 阿蘇山などの火山帯に近い地理的条件を背景に、地下の蒸気を利用した地熱発電が発達し、全国有数の発電量を誇っている。	大分県は九州の北東部に位置し、くじゅう連山や阿蘇山に近い火山地帯を抱えています。このため地下深くに高温の熱水や蒸気が存在しており、これを取り出してタービンを回す地熱発電が地域の重要なエネルギー源となっています。資料に示される約823百万kWhという発電量は、この火山帯という自然環境を産業に結びつけた結果です。